

令和５年度 第３回 平野区教育会議 会議録

日時：令和６年３月２５日（月曜日）午後７時

場所：平野区役所 １階 研修室

出席者：【委員】

浦崎委員 水原委員 渡辺委員 大森委員

野田委員 砂川委員 藤本委員

【オブザーバー】

廣岡 喜連北小学校校長 谷塚 加美中学校校長

堂前 加美北幼稚園園長

【平野区】

武市区長 板橋副区長 堀川子育て支援担当課長

樋口政策推進課長 星野政策推進課長代理 上原担当係長

議題：平野区長・平野区担当教育次長あいさつ

「分権型教育行政」による平野区の主なとりくみについて

- ・読書運動（読書ノート・えほんふれあいノートなど）
- ・ゲストティーチャー制度・いのちの教育
- ・民間事業者を活用した課外学習支援事業
- ・こどもの「生きる力」育成事業
- ・こどもサポートネット事業

こどもの生きる力＋１０（プラステン）について

○樋口政策推進課長

皆さん、こんばんは。定刻少し前でございますが、欠席のご連絡をいただいている

方以外はおそろいですので、始めさせていただきます。

政策推進課長の樋口と申します。本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから令和5年度第3回平野区教育会議を開催させていただきます。

本日は年度末のお忙しいところにもかかわりませず、また夜間の時間帯にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは早速ですが、会議開催に先立ちまして、平野区長の武市からご挨拶を申し上げます。

○武市区長

どうも皆様、こんばんは。

本当にお天気も怪しい中、年度末の大変お忙しい時期にお集まりいただきましてありがとうございます。

第3回の教育会議ということで、平野区の様々な取組について、1年間の報告等をさせていただきます。春は別れと出会いの季節ということで、どの学校も幼稚園も卒園と入園と、また行政機関も異動の時期でございます。当然去る人もいれば新しい人がやって来るとということで、学校もそういうことがあるかと思えますけれども、今までやってきたことを、人が代わっても引き継いでやっていくというのはとても大切なことだと感じております。私自身、前任の区長や前々任の区長がずっと育んできたものを、できれば引き続き発展させていきたいというふうにも考えておりますし、むしろ新しいことをどんどんやっていくというよりは、これまでそうやって積み重ねてきたことを伸ばしていくということも大切なのではないかなというふうにも考えております。

また、本日も皆様方の忌憚のないご意見をいただきながら、さらに制度を発展させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○樋口政策推進課長

ありがとうございます。

それでは、まずこの教育会議のメンバーにつきましては、開催が現在のメンバーで2回目となっておりますので、ご出席の皆様及び区役所のメンバーのご紹介につきましては、資料の配席図をもって代えさせていただきます。

なお、本日、加賀委員、宮本委員におかれましては、ご欠席のご連絡をいただいております。

また、今回もオブザーバーとして加美中学校の谷塚校長先生、喜連北小学校の廣岡校長先生、加美北幼稚園の堂前園長先生にオブザーバーとしてご参加いただいております。

また、この教育会議は、原則公開の会議となっております、一般の方の傍聴や報道機関の取材も可能となっております。なお、本日は傍聴並びに報道機関の取材はございません。

また、本日の会議内容は区役所ホームページ等で公開する必要があることから、会議の録音を撮らせていただいております。

それでは、この後の議事進行は大森議長にお願いしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

○大森議長

分かりました。

それでは、議事を進めてまいります。

本日、本年度最後の教育会議になりますので、区役所から令和5年度の振り返りと、来年度に向けての主な取組について説明をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○上原担当係長

皆さま、こんばんは。平野区役所の上原です。よろしくお願いいたします。

読書運動から、民間事業者を活用した課外学習支援事業までの5項目を説明させていただきます。まず、3ページをご覧ください。今年度の読書運動の表彰者は2,225名と前年度より約200名増えました。特に、中学校の表彰者数は172名と昨年度より3倍以上に増えており、表彰率も4.2%となりました。それぞれの学校で読書推進に取り組んでいただいたおかげと思っております。ありがとうございました。

皆様のお手元に「ひらちゃん読書ノート」の1年生から4年生用の来年度分を置かせていただいております。何が変わっているかといいますと、表紙右上に「平野区制50周年」のロゴマークと、裏表紙を見ていただきますとミャクミャクが載っております。万博の機運醸成の一環として、冊子の中にもそういう形で入れており、ひらちゃんとミャクミャクが順番に登場するデザインで作成しました。ご参考にお持ち帰りいただければと思います。

それでは4ページを見ていただきますと、今年度の小学校のベスト10と中学校のベスト3を記載しております。小学校の1位は、到達者数・到達率とも瓜破西小学校で、初年度を除きまして6年連続での1位となります。到達率は92%で、10人中9人以上が表彰となります。ちなみに、今日出席していただいています廣岡校長の喜連北小学校は、到達者数第2位でございます。ありがとうございます。中学校につきましては、前年度と同じ加美南中学校が1位ですが、到達者数が増えまして、昨年度は15人だったのが94人ということになりまして、到達率も25.3%と4人に1人が表彰されております。

少し戻りますが、読書ノートは3ページの表にありますように、始めましたのが平成29年度になりますので、小学校は今年で7年目、中学校は1年遅れてスタートしましたので6年目になります。読書推進委員会など民間の読書手帳の取組を活用していましたが、小学校の到達率が当時は5%程度でしたので、多くても10%、少ないと3%と予想して始めた事業ですが、小学校では1年目から17.9%、2年目で24.4%になりまして、以降はコロナの影響で増減しますが、平均すると25%ぐらいで

定着しています。一方、1年遅れて始めました中学校は導入時が少なく0.3%、2年目を1%、コロナ禍で増えたときでさえ2.4%となかなか増えない状況が続いていました。教育行政連絡会や校長と区長の面談の席でも理由をお尋ねしましたが、基本的には部活や受験もあり、なかなか増えないとのご回答でした。今年2月に瓜破西中学校の生徒さんの職場体験を区役所で受け入れ、私が担当いたしました。その体験の中で、生徒さんに中学生で読書ノートを送達者が少ない理由と、その改善策を考えていただきました。その内容を資料5ページに記載しております。

(資料の提示)こちらでございます。原因としまして主に4つを挙げていただきました。①の部活や受験などで読書の時間が少ない、これは以前からお聞きしていた理由でありまして、かつ基本的に改善策をつくれないものでしたが、残り3つの原因については、改善策を考えていただきました。特に、私どもが意外だったのが、②の「提出期限や提出先が分からない」でした。区役所では小学校と同様の説明や対応を中学校にも行ってまいりました。しかし、小学校では担任が国語や読書の授業を行い、かつ学校図書主任も決まっております、年に3回、図書主任会も開かれ、区役所も出席しまして、読書ノートの情報も共有しております。しかし中学校では、担任は国語の先生とも限らず、図書主任の方もおられません。この状況で小学校と同じ説明をしても、なかなか担任の先生方にはうまく伝わっていないということが分かりました。今回8名の生徒を職場体験で受け入れたのですが、このうち1名は読書ノートの目標到達者でした。しかし、読書ノートの締切りや提出方法を担任からお聞きしていたわけではなくて、小学校では2学期末に集めていたため同じと思い、自分で担任に提出されたそうです。また、参加された別の生徒は3,000ページ以上を読んでいたものの、提出期限も提出先も分からなかったのもので、提出しなかったとのことでした。そこで、平野区役所の令和6年度の改善策ということで、中学生につくっていただきました改善策②に従いまして、提出方法や提出期限を記載した説明文書、A4一枚を読書ノートの配付に併せて配付しようと考えております。

なお、中学校の読書ノートにつきましては、5年分2万冊を大阪平野ロータリークラブさんからご寄付いただいております。来年度4月にお配りするもので当方の在庫もなくなります。再来年度分以降は、再度寄付を受ける予定ですので、読書ノートの中に提出方法などを記載するように改善させていただきます。

続きまして、次の項目、6ページでございます。がんばる小学生・がんばる中学生の区長表彰になります。一番右の「R賞」のところの欄に丸があるものは、大阪平野ロータリー賞も受賞されております。大阪平野ロータリークラブさんも平野区役所同様、今年で50周年になられます。そのため予算の関係もありまして、昨年度よりはかなり表彰者を絞ったとお聞きしております。

続きまして7ページ、協力者への区長表彰になります。基本、前年度と同じような形で丸のある者が表彰した者でございますが、今年度図書館ボランティアの表彰につきましては、中学校では珍しいのですが、瓜破中学校が表彰されております。これは特別支援学級に読み聞かせをされているボランティアさんを推薦いただきましたので、表彰させていただいております。

続きまして8ページ、今年度新規開拓に力を入れましたゲストティーチャー制度でございます。まず1番と2番の阪神高速道路株式会社は、現在も工事が続けられております喜連瓜破橋梁の見学をいたしました。この工事は地上の交通を止めることなく、空中で古い橋の撤去と新しい橋の架橋を行う世界でも初めての工法で、テレビ番組「解体キングダム」のレギュラー放送の第2話、4月19日に全国放送されております。瓜破北小、喜連小ともその映像を見てから授業を受けさせてもらいました。工事の見学だけではなくて、レンガと土でアーチ橋を造るとか、自分らで考えたアクセサリを作るとか、そういったことも体験させていただきました。

次に、3番目の9月14日には、藤本委員が副理事長をされております梅田ミツバチプロジェクト、環境学習を瓜破西小学校にさせていただきました。内容につきましては、お配りしております今月号の「広報ひらの」の裏側、右上の部分でございます。

こちらに書かせていただいております。こちらは、冒頭で、米国の調査では食糧の3分の1がミツバチの受粉で生み出されておりました、「ミツバチが絶滅すると、4年の間に人類は滅びる」というアインシュタインの説もご紹介いただいております。

また、活動範囲が3キロと小さいミツバチを都会で飼うことで、結実できなかった草木が実をつけ、その実を食べるために野鳥が集まり害虫を捕食することで、健全な生態系を再生してくれると習いました。また、ミツバチが生涯をかけて生み出す蜂蜜がスプーン1杯にも満たないことを習いました。こうしたこともありまして、最後の3行にあります、こどもたちは「ミツバチが怖かったけどかわいいと思えた」とか、「スプーン1杯の蜂蜜でも大切に食べたい」とか、「ミツバチの好む花を育てたい」などの感想を述べていただきました。藤本副理事長、ありがとうございました。

11月1日以降の4つにつきましては、ラグビーチーム「レッドハリケーンズ大阪」のご協力によるラグビーの体験授業になります。また、例年どおり大阪平野ロータリークラブさんの協力による職業講話や、産婦人科による「いのちの授業」も行っております。

続きまして9ページ、英語スピーチコンテストになります。申込者数は昨年度より若干減っているものの、過去2番目に多い45名でした。また、審査を事業開始から行っていただいております常盤会学園大学のアレックス教授からは、年々レベルが上がっていると言われております。なお、本事業は私がこども教育担当課長のときに始めた事業で、アレックス教授からは、最初のときに「10年続けましょう」と言われましたが、来年度で実際に10年になります。

次に、10ページになります。民間事業者を活用した課外学習支援事業でございます。これは1万円の大阪市習い事・塾代助成事業の助成金内で利用できるもので、従来は中学生のみが対象ですが、今年度から小学生5年・6年生に対象が拡大されております。さらに、来年10月からは所得制限もなくなります。中学校では、現在希望された長吉西中学校と、また来年度からは加美南中学校で、区が公募した事業者が塾

を学校内で行っておりますが、対象者は当該校の生徒に限定されております。小学校は22校もありまして、また校区外に行くには保護者同伴が基本となり、全22校で行うことはほぼ不可能ですから、オンラインで実施する「ひら塾」の実施事業者を区役所が公募し、株式会社イングさんが選定されまして、現在受講者の募集を行っております。なお、来年度から加美南中学校内で行われます、いわゆる対面形式の塾、かみみなみ塾につきましては30名の定員のところ、体験学習も合わせ現在40名の申請が既に来ており、盛況となっております。

私からの説明については以上でございます。

○大森議長

どうもありがとうございました。今、平野区の教育に関わる取組、令和5年度の報告をしていただきました。皆様から今の説明に関してご意見やご質問のある方はおられますでしょうか、いかがでしょうか。

藤本さん、ミツバチプロジェクトをやっていただいて、何かありましたらどうぞ。

○藤本委員

せっかくご紹介いただいたので、私どもの本業は、平野ドライビングスクールで教習所をやっているのですが、こういった社会的な活動としてNPO法人、NPO活動もしているというのが私のライフスタイルです。その中で都市養蜂というところで、都市養蜂ってあまり知られていないと思うのですが、結構海外では頻繁にやられていて、パリとオペラ座の屋上でされているというところで、結構生活と密着して養蜂が行われている。要は、養蜂することによって蜂蜜を好んで食べるというよりは、それが育つような環境を整えていくというのがヨーロッパで今進んでいるという取組になっています。そういうところを私どもは、蜂蜜を売るとかそういう商売ではなくて、やはり環境活動としていろいろな小学校を回らせていただいているという形です。平野区さんでは1校、今年度実績をつくらせていただいて、他には北区の小学校さんでありますとか、あとは百貨店、ショッピングセンターなんかで都市養蜂を通

じた環境学習ということで、地域の皆さんに緑を増やす活動をさせていただいているという形です。

こういった活動というのは、いろいろと全国に広がってしまっていて、近くでしたら宝塚市さんとかも、宝塚ミツバチプロジェクトさんというのがあって、それは宝塚市さんと連携協定を結ばれて、全小学校でいろいろな環境学習をされているというところもあります。それはスタイルによって全然違うのかなと思いますけど、あと一つ、我々の本拠地といいますか、梅田なので、なかなか平野区に出向いてというところではなかったのですが、ひょんな機会から、この瓜破西小学校の校長先生から承諾をいただいて、このゲストティーチャーを5年生全クラス、2クラスでやらせていただいたのですが、梅田の茶屋町の養蜂場にも6年生に来ていただいて、2月に実施させていただいたところです。すごく喜んでいただけたようで、最後は実際に蜂蜜の試食なんかもしていただき、やはり視覚・聴覚、あとは味覚に訴えかけることで思い出に残り、将来大人になったときに何かしら社会のためにつながりを持ってもらえるような経験をしていただいたのかなと思います。前回の会議の中で、最後は人とのつながりというのはすごく大事な話もありましたので、そういうところにも貢献できるような取組として、実施しております。

すみません、ちょっと自分の取組のPRになってしまって申し訳ございません。

○大森議長

ありがとうございます。養蜂ということで、養蜂というものは環境を整えていくということをまず主眼に置いているということをお願いしました。緑を増やしていく、そこから人と人のつながりを大事にしたいというふうに今、藤本さんから少し説明をしていただきました。

そこに関わってでも結構ですし、それ以外にも今年の平野区の教育の取組について皆さん、ご質問・ご意見はないでしょうか。

本日オブザーバーとして、幼稚園・小学校・中学校からも参加していただいています。

す。そちらの側から、今の幼稚園・小学校・中学校の現状を話していただけたらなと思います。

堂前園長からお願いいただけますか。

○堂前園長

幼稚園はこの「ひらちゃん読書ノート」、本当に活用させてもらっています。1年から4年と書いてあるので、幼稚園用というのはあるのですか。

○上原担当係長

ありますが、すみません、今日は持ってきていないです。

○堂前園長

幼稚園も6冊目、7冊目のノートまで行くこどもたちもいて、いい取り組みだなというふうに思っています。私も園長としてもう6年目になりますが、中身がいろいろと変わっていくんだなと思って、とても興味深く聞いておりました。毎年また頑張ろうという形で、こどもたちから春休みにも絵本を借りに来ていいですかという質問があります。ただ春休みはいろいろと人事があり、まだワックスがけもせなあかんのでちょっと待ってねとは言うのですが、すごく絵本を借りたいなという声が上がってきているなと思っています。

それから、広報紙の学校園のSDGsの取組の記事にもしていただいた、「うたごえひびけ ひらのっこ」について、とてもいい経験ができたなと思っています。

クレオ大阪南の大ホールでできたことが本当によくて、こどもたちの声が本当にのびのびと響いて、すごく自信を持って歌うことができていたと思います。いろいろな方が来られるのですけれども、自分たちの歌を披露するというか、聞いてもらいたいという気持ちが自然と生まれてきているなと思います。本当にいい経験をさせていただいて、とても喜んでいます。以上です。

○上原担当係長

追加ですけど、先ほどの3月号の表紙の部分が、えほんふれあいノートの表彰のシ

ーンです。残念ながら、加美北幼稚園ではなく長吉幼稚園ですけど、こんな感じで表彰をさせてもらっています。えほんふれあいノートの場合は読み聞かせた冊数になりますので、基本は保護者の方と一緒に表彰をしています。だからお母さんなり、お父さんなりと一緒に表彰を受けている形になっております。

○大森議長

ありがとうございました。読書ノートが幼稚園でも活用されている。また、今紹介されました「うたごえひびけ ひらのっこ」、幼稚園はそんなふうにしてご縁が集まって歌声を響かせていると、加美北幼稚園の堂前先生より紹介してもらいました。読書ノートは先ほど藤本さんが言われた、梅田の養蜂場まで行っていた瓜破西小学校が、前回もありましたけどこの読書ノートも常に1位にいてるのですかね、非常に熱心なこういう取組をされているのですね。

今そんな小学校のことも言いましたが、次は小学校から喜連北小学校の校長先生、小学校の状況も交えてお話をしていただけたらと思います。

○廣岡校長

失礼します。喜連北小学校の廣岡でございます。いつもお世話になっております。

先ほど上原係長からもご紹介いただきましたけれども、まず、読書ノートの到達者数は本校が第2位ということで、私が喜連北に来て今年で3年目ですけども、私が来る前からこの読書活動というのにすごく力を入れておりまして、ただ1位にはならなかったというのがちょっと残念やなと思いますね。また、こどもたちにハッパをかけて、来年度は1位をめざしたいと思います。

ただ、先ほど中学校でなかなか読書ノートが定着していないというところで、中学生になったらやはりクラブであるとか、受験であるとか、恥ずかしさというものもよく気持ちとしては分かります。やはり小学校でもだんだん高学年になってきたら、少し減ってきているかなというのがありますので、そういう年頃なのかなというふうに思いますけども、ただこれだけ区を挙げてずっと長年やってきた取組ですので、例えば

小学校を卒業するこどもたちに、読書ノートというのは小学校で終わりじゃなくて中学校でもあるんだよということを伝えていけば、本当に6年生でもすごく励みにしているこどもたちはたくさんいますので、中学校でもまた同じようにあるんだということが分かれば、中学校での活用率も増えていくのではないかなというふうに、先ほどお話聞いていて思いました。それが一点です。

次に2点目ですけれども、6ページにがんばる小学生の区長表彰というところで、本校は個人として3名、これは6年生ですけれども、宿題以外に自由勉強というものを本当にこの3名は、5年生のときから2年間ずっとほぼほぼ毎日欠かすことなく自主学習に取り組んできました。本当によく頑張っているなというふうな思いがあって、ノートは私がチェックをしていたのですが、区長にお越しいただいて直々に表彰をしていただいたということは、本当にその3人にとってもすごくうれしかっただろうと思いますし、保護者からはお礼の言葉、ありがとうございましたという言葉もいただきましたし、それを見ていた他のこどもたちも自分も頑張ろうという意欲につながったのではないかなというふうに思っております。また5年生も、4年生のときに社会科の学習で水の勉強があり、それをきっかけにして節水運動ということに取り組んできました。私もそうなのですが、そのような取り組みも大概1週間、2週間したらフェードアウトするというのが多いと思うのですが、5年生は本当に今も続けているのです。今も毎週水曜日に水の日というふうに位置づけて、校内放送を使って節水を呼びかけているということで、ぜひこれはもう卒業までやってほしいなと。やはりいろいろな社会問題に目を向けて、自分たちにできることは何かなということを考えて取組を始めた活動の1つなのですけれども、やっていることは本当に校内だけでちっぽけなのかもしれないけれども、この経験・体験というのは、必ず将来社会に出たときに自分も何か社会の一員としてできることがあるのではないかなという、そういう動機づけというか、意欲づけにはなるというふうに私は思って、ぜひ応援を来年度もしていきたいなというふうに思っていますので、来年度も表彰されるように継続し

て頑張るように言っていきますので、また区長にお越しいただけたらありがたいです。

最後、今年度はちょっとできなかったのですが、昨年度の漫才ワークショップをやって、これも本当にこどもたちが楽しそうにやっておりました。ただ単にお笑いというだけじゃなくて、なかなか今のこどもたちというのは人の前で話したり、何か演技じゃないですけども、発表するというのが苦手なこどもたちが多いです。でもこどもたちになじみの深い「笑い」というもの、大阪文化の1つだと思いますけども、そういうものを通して皆の前でしゃべったり、何か表現したりというのは非常に貴重な経験だったなというふうに思っています。今年度はいろいろな事情でできなかったのですが、これは来年度もやりますか。

○上原担当係長

あると思われます。

○廣岡校長

ぜひ、あれば。

○武市区長

この間説明に来はったのは吉本じゃなかった、それは違う。

○上原担当係長

区の校長会で来られましたね。

○武市区長

今年も募集中と。

○廣岡校長

ぜひ応募をして、やっていきたいなと思っております。

以上です。

○大森議長

ありがとうございました。最後に漫才ワークショップというのを紹介されました。

○上原担当係長

少しだけ補足ですが、一番後ろの資料の最後に表がありまして、去年と今年の実施状況を記載しています。実は昨年度、平野区は一番多く実施した区でしたが、今年度は実は2校しかやっていなくて、かなり減っています。年度当初に吉本さんが実施のアナウンスをするのが遅れたというのもあるのですけども、その関係で今年は少なくなりました。来年度はできたら多くやっていただけたらと思います。

○大森議長

今、廣岡校長先生から、漫才ワークショップでスピーチの力もつくし、いわゆるプレゼンテーション、そういうような力もつくので、ぜひやっていきたいと。また、喜連北小学校は、がんばる小学生表彰ということで3人が区長さんから褒めていただいたのですかね。すごくいい思い出になるのではないかなと思いますね。自主学習をたくさん頑張ったと。

また、5年生は水道の節水、それはやはり環境教育につながっていくのでしょうか。先ほどのミツバチでも環境にと、皆が環境を大事にするというのは今求められていることだなと思います。

それから喜連北小学校は、瓜破西に次いで2位ということで読書運動を頑張っていますと、でも先ほど上原係長の話だと中学校への広がりがなかなか弱いと聞きました。担任の先生がなかなかそこをきちんと把握して生徒にうまく提出先や方法の伝達ができている場合もあるのではないかなと、おそらく中学生でもたくさん読む子は読んでいるのだろうなと思います。

そんな点で、今度は、中学校から谷塚校長先生、中学校の状況も踏まえて他のことも結構ですので、お話をしていただけたらと思います。

○谷塚校長

ちょうど先週の木曜日に区の行政連絡会があって、この資料を上原さんから説明いただいて、読書につきまして、私は令和3年に赴任したので、今3年目になるのですが、学校全体の1つのテーマが「考える力の育成」というので、とにかく点数にこ

だわるのではなくて、授業では必ず考える場面をつくってくださいと、考えをお互いに隣でもいいし、グループでもいいし、とにかくいろいろなところで表現する。頭に浮かんだイメージとかを文字にするとか言葉にする。それをずっとやってきて、そんなふうに授業改善も先生にしてもらっています。ただ考えようと思ったら、やはり語彙が増えないといけない。それにはやはり読書やでと思って、着任した当初は全校集会でよくイチローの話なんかをしていたのですが、今年はもう大谷翔平君で、亡くなられた稲盛さんの本をバイブルにしているという話があったので、「僕も好きやったのでよく読んでた」、「大谷君はこの言葉を信じてやっているんや」みたいな話をしたら、一応反応はしてくれるのですが、なかなか読書につながらない。いろいろと瓜破西中の生徒が理由を挙げてくれましたが、確かに部活動や受験とかもあるので、やはり一番はスマホやと思うのですよね。時間があったら僕でもなかなかスマホが離せないというか、確かにすごく情報も入ってくる。そこはやはりご家庭にも協力をしてもらわないとあかんねんけど、親御さんも大概やってはるので、「母ちゃんもやっているやんけ」と言われたらなかなか注意しにくい部分もきっとあるのだらうなと思います。うちも地域の方が入っていただいている「元気アップ事業」で、地域の方に図書館の整備とかもしていただいて、本当にきれいな図書館で、どこに何があるかすぐに分かります。さらにもうお願いをしたら、各学年の廊下にコマの付いている本棚を設置してもらって、そこにタイムリーちゃうかなという本を置いて、廊下に出たら簡単に借り出せるようにしてくれましたが、それでもなかなか読書に繋がらない。

さっきも高学年になったら表彰数が減ると言われましたけど、読んでいるのが格好悪いと思うのですかね。そんなこともよく宣伝するのですが、そこはなかなか改善が難しくて、苦勞をしているところです。ただ、先週に僕もこの資料をもらって、小学校のベスト10に、うちの校区の加美小が3位に入っていることを、次の日にうちの先生にも言ったのですが、「加美小が3位に入っているねんから、加美中、ちょっと頑張らないとあかん」と言って、何かいい手はないかなとかいうのを言ってい

たところで、また元気アップさんとも協力してもらいながら、またいろいろな工夫を
やらないとあかんなと思っているのですけども、これを頑張っていきたいと思います。

それと、さっきの表彰の部分も今年度はスポーツの関係で、バトンとラグビーの子
が表彰を受けまして、先ほどもありましたけど、本人もそうですけど、保護者の方も
すごく喜んでいたし、周りの友達もいろいろなことを頑張ってみようかなという話も
出てきたりしていて、本当にこれはありがたいなと思っているのと、あと、先週の木
曜日の校長研修会で教育委員会の指導主事が来られていて、今年の1年の総括じゃな
いですけど、生活指導とかいじめの事案とかいろいろなことをしている中で、いろい
ろな部分で平野区全体がすごく底上げできていると、学力の部分だけじゃなくて、い
じめの数も日本全体はすごく増えているねんけども、やはり先生方はちょっとしたこ
とでも報告するようになってきているので早めに解決したりとか、その中でも平野区
は重大な事案になるとか、長期化するのがすごく少ないので、本当にすごくやってく
れていると思います。というのは区役所さんもいろいろな取組をしていただいている、
こんなところも連携と言ったらちょっと大げさになるかもしれないけども、そういう
ところがやはり潤滑剤になっているのではないかというふうに感じるところです。た
だ、以前から思っていたのですけど、うちもいろいろな調査テストで点数がだんだん
上がってきているのですけど、府の平均との差もぐっと縮まって、府の平均を超える
ような教科もだんだん出てきて、英語もそんなに府の平均から離れているわけではな
いのですけど、今、英語嫌いの子が全体的に増えているのですよ、昔より。10年ぐ
らい前に当時の首相が英語のことをすごく言いはって、うちの中学校に籍を置いてい
るのですけど、小学校に小学校専科という制度で英語を教えに行っているのですよ。
今のC-NETといって、ネイティブをしゃべる方も行っているし、10年以上前と
比べたらこどもらはすごくシャワーのように英語を浴びているはずなのに、中学校に
入ってくる子らがもう英語は嫌やというのが本当に多い。僕は今の学校だけじゃなく
て、前の学校の教頭のとときもあって、やはり中身を聞くと、10年前に首相が、日本

の英語ってせっかくこれだけ学力もあってやっているのに、将来英会話ができる子があまりいてないと、ところがお隣の韓国なんか割としゃべれる人がたくさんいててというのはありますけど、だからその部分をもうちょっと分析してやってくれたらよかった。小学校で英語を学習するのはいいけども、単語でいったら600語ぐらいを小学校で学ぶそうです。僕は昭和38年生まれですけど、中学のときに英語が始まって多分1,000語も覚える単語がなかったと思うのですよ。それが今では小学校で600語ぐらいで、中学は1,600語なんですよ。今詰め込みはあかんとかと言って、授業も変えないとあかんとかと言っているのに、英語だけは単語だけでいったら小学校で600で中学生1,600で、高校1年か2年に当たるぐらいまでの量を中学校まででやるのですよ。それは嫌いになるでと思います。根本の詰め込みを直さないとちょっと難しいところは確かにあると思うのですけど、中学校に入ってくる前から英語が嫌いだと入ってくる子がどんどん増えているのを考えると、さっきの「ひら塾」の説明の中にも小学校6年生は英語の指導も行いますというのが書いてあったので、こうやって小学校の英語の学習に区役所も協力していただいて力を入れていただけるのは本当にありがたいなと思います。でも英語も結局、中学校もそうなのですが家庭状況の差が出るというか、小学校でもすごく英語が堪能な子がいて、今年の中學1年生にもいてるのですけど、やはり経済的に余裕のある家庭の子は英会話教室に行くのですよ。その子はやはり堪能なのですよ。家庭状況の差がぐっと出てしまうこともあるので余計に、国の詰め込み学習の部分を変えてもらわないといけない。年々英語が好きやとか、英語を将来しゃべりたいと思うこどもの割合がどんどん下がっていると思うんです。昔は中学校で最初に習うから、皆英語をしゃべりたいと思って中学校に来ているのに、今はもう小学校の段階で「英語は無理や」みたいな、これはちょっとおかしいのではないかなと思います。でも行政もこうやって小学生の英語学習に取り組んでいるのはすごくありがたいと思うし、これをまたうまいこと、うちは加美小と加美北小学校が校区なのですが、いろいろと相談しながら活用できるこ

とはさせていただきたいなというふうに思いました。

○大森議長

何かありますか。

○上原担当係長

英語ですか。何年か前には常磐会さんに頼みまして、小学校の英語の先生に対して英語の講座みたいなのをやっていただいたこともあったのですが、コロナ禍で途切れてしまいました、そういった取組もありました。

あと、読書ノートについて、加美小学校さんが今回3位ですけど、よく考えたら、喜連北小学校さんは去年からすごく成績がいいんです。去年のその当時の教頭先生が今、加美小学校の校長先生です。喜連北さんでやった方法を加美小に持っていったら、これだけ増えたと言われていました。

○谷塚校長

そのノウハウを聞いてみます。ありがとうございます。

○大森議長

今、谷塚校長先生から、まずは読書のことを言っていただきました。それで聞いていて素晴らしいなと思ったのは、加美小が伸びていると聞いて、すぐに「加美小がこれだけ伸びているぞ、うちも連携して頑張ろうよ」と校長先生が先生方に伝えるあたり、小・中の話をもらったネタをすぐに生かされているなと思いました。今、上原係長が加美小が伸びているその種明かしをされて、これはリーダーによるわけですね。教頭先生なり校長先生がどんだけ熱心にされているかということも非常に大きいということですね。そういうリーダー層、管理職の先生の引っ張る力というのもすごく影響するのだろうなと思います。

それと、谷塚先生、表彰されたバトンとラグビーというのはどんなものなのですか。

○谷塚校長

ラグビーは太陽生命というのが主催で、中学校は全国大会ってないんですけど、ジュニアは全国大会があって、そこで優勝したのです。そのメンバーの1人がうちの学校でして、女子なんですけど、ラグビー部はないんですけど、東生野中学校というのがめちゃくちゃ強いんですよ。そこに参加させてもらってチームをつくっているんですけど。

○武市区長

女子のチームがあるんですね。

○谷塚校長

そうです。すごいですよ、うちの子も。

○武市区長

ぜひレッドハリケーンズ、加美小と喜連北でやってくれてはりますけど、中学校も指導しますと言ってくれてはるので、加美中に行ってもらおうよと言っていたのですよ。

○上原担当係長

願いをしたんですけど、ゼロ人だというふうにお聞きしました。

○武市区長

部員がゼロ人。

○谷塚校長

その女の子が1人で、その子は東生野でお世話になっている形なので、去年までは1名おったんですけど、それでも1名しかいなかったんですけど、なかなか。

○武市区長

少人数の中学校のクラブもレッドハリケーンズが指導に行ってくれたら、入部する生徒も増えるかなとちょっと一瞬思いましたけど、それはまた残念でございます。またクラブの生徒が増えたらお声がけください。

○谷塚校長

ぜひ。

バトンも同じように全国大会に出た子で、その子は優勝ではなかったですけど、全国大会に出たということで表彰していただきました。

○大森議長

そんなふうに、自分の学校の子が表彰されたら、他の生徒もうれしいでしょうね。

○谷塚校長

一応校長先生と、400人から1対1というのはなかなかない経験なので、すごく本人は緊張していますけど、やはり喜んでいて、保護者の方と会ったときには必ず私にもありがとうございますと言われるので。区長さんのほうでやってもらっているのと言って。

○大森議長

こどもが、前に出られるような場面をいっぱいつくってやるというのは大事なかなと思います。

それから今言っていたいじめの早期解決で、平野区はそういう重篤化するものはないという、非常にすばらしいことだと思いますね。府下でもこどもが命を亡くしている事例がありますし、訴訟等にもなっていますから、そういう点ではやはり一番大事なかなと思います。

最後に読書と英語ですね、英語について言われまして、これは当然読書とも関係してきますよね。最初に言われたイメージを文字にする、言葉にすると、それはやはり語彙不足なんだと、だから読書で力をつけていく、日本語の力がしっかりとしていないとやはり英語を伸ばすことはほんまにできないだろうということで、読書を伸ばすということは非常に重要なことだろうと思います。だけど今提起されたのは、小学校での英語学習が広がっていった中で、中学校に上がってきたときにはもう英語嫌いの子ができてしまっているという、ここが非常に課題でしょうね。私なんかは小学校で英語がなかったですから、中学校に入るときに初めて英語を学ぶというわくわく

感もあるし、最初は皆やさしい英語で入るのですよね。それが中学生に入るときには既に嫌いになってしまっている状態があるということは、非常に重大なことかなと思いますね。さらに家庭状況の差があると。既に英語を習っている子と習っていない子の差ができてしまっているわけですよね。そのこともやはりこれからの課題かなというふうに思います。そこを行政としてもどう支援できるかということもあるかもしれないですね。今中学校からそのような話をしてもらいました。

あと、皆様方から今、幼稚園・小学校・中学校の校長先生、園長先生からお話をいただいたのですが、何かお聞きされたい質問等はないでしょうか。

せっかくおいでいただいたので、何かあれば。

○水原委員

質問ではないですけど、今英語のお話をされていたのですが、うちはこどもが3人、小学生なので英語の勉強を皆しているのですが、家で何かを書いたりしているのは全然見ないですね。教科書みたいなものを持っているのですが。何の勉強をしているか分からないのですが、勉強は楽しいと言っていました。英語が好きかという学校の質問でも60%ぐらいが好きと言っているのですよ、成績がいいかどうかは別として。だから多分、そこまで詰め込む勉強はしていないかもしれないです。ただ、覚えられる勉強をしてない。

○谷塚校長

それを小学校の先生にしてもらうので600語ぐらいが出てくるはずなのですよ。それで、中学の教科書は初っ端から600語を当然分かっているつもりで始まるのですよ。

○水原委員

覚えているつもりで始まるから嫌いになっちゃうと。

○谷塚校長

そうなんです。いきなり中学校では文章が長いのですよね、大体耳で聞いたり楽しく

小学校ではやってくれていると思うのですが、そのレベルでそのまま上がってきてもらって、今までの教科書でやってくれたら絶対そんなことないと思うのですよ。いっぱいシャワーを浴びているから耳は肥えていると思うので。

○水原委員

耳から覚えるのがすごく大事なのですが、やはり小学生なので書くのはなかなか、日本語でも書くのがゆっくりなので、英語まで書けていないところはあるのですが、C-NETで外国の先生がずっといらっしゃって、その先生がほぼ日本語はしゃべられないで英語でずっとお話をされるので、英語を聞くことはすごく好きなのです。ただ、それを書いて勉強というのにまだ結びつかないので、中学校の勉強にちょっと戸惑うところがあるかなという面はありますか。だから英語自体は嫌いじゃないです。ただ身についているかどうかはちょっと、聞く能力がついているような気はしますね。

○谷塚校長

勝手なことを言うと、解決するためには小学校に英語の先生として教科担任を置くこと。中学と同じように英語の授業をするのだったら、英語の先生も中学と同じように常駐で授業をしていかないと、ほんまにどんどん嫌いになっていくと思うのですよ。小学校の英語の免許を持てはる先生だったらできるかもしれないけど、小学校の先生は9教科を全部教えないとあかんし、そんな英語だけ特化してとか、そんなのは難しい。

私が教頭時代に、埼玉の熊谷市に研修で行かせてもらったことがあって、熊谷市には13校の中学校があるけども、詰め込み式になったのが1つのきっかけで、そんな授業をしていたら英語が駄目になるといって、熊谷市13校だけで文科省が指定する教科書をやめて、物語の教科書をその地方で全部採用して、中3の1学期まで一切書かない。もうしゃべらすのと、耳から聞くことばかりで、教科書を1年間に10周するのですよ。そして3年生の夏休み前から文法とかをやり出すのですね。そうした

ら3年生の1学期までは皆偏差値は40行くか行けへんかなのです。ところが夏休み前からそれを始めて、10月、11月ぐらいになると、早い子は偏差値が70まで上がるらしいです。一気に耳と口ができるので、聞いたことは全部大体分かる子がほぼほぼクラスの大半を占めていて、ただ書くのが途中からやるのでなかなか追いつかへんねんけども、でも大体、熊谷市の中学生の多くは偏差値でいうと65から70ぐらいの子がたくさん増えて、それで結局は英語に特化しているということで英検の1級とか何とか、今はもらえるので、それで大学まで行ってしまう子がいてる。ただ熊谷市だけでやっているの、すぐ隣の市の中学校の子が来るような塾に行ったら、その子らは文法を1年からずっとやっているから、成績がもう中3の1学期までは全然あかんねんけど、ところが一遍に逆転するという。これは全国で進められたほうがいいですかねと言ったら、熊谷市のその担当者の人は、やはりいろいろな障壁があるので、どこでもやってとは言えへん。やったなりの結果はあるけど、その代わりにすごく反発もあるので、すごくエネルギーが要りますという話はされていました。それはちょっと難しいとしても、やはり英語については何かちょっと働きかけていただいていけないですかね、もうちょっと教科担任制を早くしてもらおうとか、英語の先生をほんまに入れないと、ほんまにこどもがかわいそうというか。

○武市区長

区長の会議ですけども、一応指導部の第4ブロックの指導部の方がおられますので、現状としてはお伝えをさせてもらおうと思いますけども、なかなか第4ブロックだけ急にやり方を変えるわけには絶対にいかへんでしょうし、なかなか大阪市教育委員会事務局だけで突然やり方を変えるとかはかなり難しい状況でしょうし、先生の配置に至っては、おそらく普通に今必要な人数を配置するのも難しいのに、かなりハードルが高いかもしれませんが、ただこのままでは英語嫌いのこどもが中学校に入ったところから増えるんじゃないかという危惧があるというのはお伝えをして、何らかの実態も確認してくれというのは申しあげたいと思います。

○廣岡校長

いろいろと小学校の英語が話題になっていますけども、実は来年度から高学年を中心にその専科制というものは積極的に導入されています。今までは習熟という形で国語・算数を中心に、例えば2クラスだったら3クラスに分けてやっていたのですが、そうじゃなくて、例えば英語の専科で算数専科、理科専科という形で国としては英語、算数、理科、これをやりなさいということで、実際調査も来たんです。なかなか小学校の先生が英語を教えるということに、若い人たちは比較的、自分たちも同じような授業を受けてきたので慣れているのですが、私もそうなのですが、ある程度のベテランの英語の授業と云ったら、しゃべるとか話すじゃなくて、とにかく読んで、書いて、長文読解で点数を取れと言われた時代ですから、なかなか英語を得意とする先生はいないというのが現状です。

もう一つ、学校の現状で言えば、例えば英語専科というのを設けても、英語の時間というのがせいぜい週に1時間なので、だからその先生が受け持つ授業時数がぐっと減ってしまうのです。そうしたら、他の先生との授業時数のバランスというものもあるのでなかなか難しい。教育委員会は積極的に専科制をやって、それぞれの専門性を高めてこどもたちの学力の底上げを図れという方針になってきて、国もそうなっていますので変わってはきています。現状で英語の専科について、私も来年度の関係で考えたのですが、明らかに時間数が少ないので、ちょっとバランスが悪いよなというので正直なところです。ただ、今の教員採用試験、先ほど区長もなかなか人を集めるのは大変だということで、英語の免許を持っていたら点数がちょっとアップするというか、下駄を履かせてもらおうというか、そういう取組はしています。だから英語が得意な小学校の先生は大阪市では受かりやすいというのは正直あります。何点下駄を履かせてもらえるか分からないですけども。

○大森議長

90点です。

○廣岡校長

90点ですか、そうですか。

○大森議長

900点満点で90点。

○廣岡校長

大きいですね、1割ですね。ただ、英語の免許を持っていて、小学校の免許を持っているという人がいてるのかな、今の大学のカリキュラムがどうなっているか分からないですけども、我々が大学のときなんかはそんなのは不可能でしたから、カリキュラム上。小学校の免許を取って、英語の免許なんか、カリキュラム自体がそんな設定になっていませんでしたので、今は大分変わっているかも知れないですけども。

○大森議長

ありがとうございます。今、廣岡先生のほうから専科、教科担任制みたいなそういう専科をしていきたいけども、まず、そういう先生がいるかどうかというところから始まるということですね。先ほど区長さんも言われましたが、今現状としてはまずは人をどう集めるかなのですよね。

○廣岡校長

そうですね。

○大森議長

非常勤の先生、講師の先生で埋めていっている状態ですよ、人が集まれへんから。そんな中で英語の先生をとというのはなかなか、言われたように加点ですね、教員採用試験のときの加点で英語の中学免許があれば優位というものはあるのですけどね。あるいは、常磐会でしたら、令和7年からは特別支援教育の免許も取れるようなカリキュラムを組んでいくと、これもやはり加点があるのですね。そういう教育現場のニーズがあるということで、英語なり特別支援とか、それに大学も応じて取組を進めているのですけど、実際にはなかなか中学校英語の免許を取る学生は少ないですね、やはり

それなりの力が要ります。それだけの単位も取らないといけませんので、おっしゃるとおりなかなか難しいです。でも今、埼玉の熊谷市で詰め込みでない、英語を楽しむ教育が進められていると、そういう提言をされたと思いますので、区長さんが言われたようになかなか一気に難しいですが、行政でもまた考慮願えたらと思います。

今英語、あるいは読書という形で話が煮詰まっているのですけども、次の課題が1つありますので。

○浦崎委員

質問だけしたかったですけども、小学校と中学校の小・中連携をされていると、前からもずっとされていると思うのですが、英語の場合は小学校の先生って、先ほど廣岡先生がおっしゃったように週1時間の指導しかない。だからなかなか小学校の先生の英語というのは難しいから、中学校と小学校の先生の英語の指導の仕方とか、いろいろな交流みたいなのは実際にはされていませんか。

○谷塚校長

うちやったら、今年度から小学校専科というのに手を挙げたのですよ、うちは来てくれていて、加美北小学校、加美小学校に週1時間ずつですけど、5年生と6年生に教えにいらしてくれて、残りの時間はうちの学校の生徒に指導をするのですけど、それがあるので小学校の先生とは毎日必ず出かけていくので、どちらかの小学校でやるので、絶えずやり取りはできるけども、ただそれは大阪に130校ありますけど30校ぐらいで、他の中学校は多分手を挙げてはらへんので、ごくごく一部ですよ。

○浦崎委員

だからやはり小学校の先生というのはなかなか英語には慣れないというのは、もともと僕も小学校なので、そういう意味合いで言うと、英語のネイティブを選んで受けて最初にやったときというのは、全く指導がうまくいかないからどうするかといったら、お隣にある中学校の英語の先生とちょうど小中一貫教育や何やとって、小・中連携をやっていたときですから、それでつながってやったことはあるのです。だから

昔に幼稚園から小学校に上がるときは、やはりそういう段差があるということで生活課が入った時期があったのと同じで、小学校から中学校の英語をするとなったときにはやはりなかなか厳しかったように思いますね。だからそういうところで何か手立てがうまく、自分も昔にやっていたのですが、その当時はそんな600語も覚えないとあかんような時代でなかったのも、楽しく英語を学ぼうという感じでした。やはりそのあたりが小学校の先生方に中学校の英語の先生方のノウハウがうまく流れていく方法というのが何かあれば、先ほどおっしゃったように、英語の専科を置かなくてもうまくいくのではないかなという気はしたのです。

○大森議長

小・中の連携ですね。中学校の英語の先生が小学校で何かを教えに行ったりするとまたちょっとなじみができるのかも分からないですね。

○浦崎委員

そうですね、だからそれも1つの方法かなと思いますけど、なかなか授業の時間がうまくいかないのも、合わせられないとは思いますが。

○大森議長

そうですね、それぞれ科目、担当がありますから時間が難しいかなとも思いますが、何か工夫をして大阪市平野区の皆の英語の力が伸びたらいいなというふうに思います。

では先を急ぎまして、2つ目の議題、こどもの「生きる力」＋10（プラステン）について、事務局から説明をお願いしたいなと思います。

○上原担当係長

資料の12ページをご覧ください。お時間の関係もありますので簡単に説明をさせていただきます。

（資料提示）こちらです、横書きの分です。2枚になってます。12ページ・13ページということで、平野区は地域や学校とともに分権型教育行政を推進しておりまして、児童生徒が自分らしく生き生きと成長していけるように、幼稚園から高校まで

学校園・保護者・地域の意見をお聞きしながら切れ目ない施策を進めまして、生きる力につながる基礎的な学力の定着と、教育と福祉の連携、こどもたちの安心・安全の3つの課題に重点的に取り組んでまいりました。また、子育てにおきましては、ヤングケアラーや虐待などの問題が増加しており、区の子育て支援施策として、子育てしやすい環境づくりを進めつつ、児童虐待防止・早期発見などにも努めております。このため前回の会議で簡単にご紹介しました、この「平野区のこどもたちを元気にする宣言」を上位理念に置きながら、家庭、地域、区民、企業、学校などがこどもの成長についてしっかりと考え、ともに持てる力を発揮しまして、夢と希望と誇りを持ち、未来にきらめくひらのっ子を育成するために、平成29年4月に平野区のこどもたちの「生きる力」育成プロジェクト＋10（プラステン）を平成29年に作成しまして、妊娠期から子育て期、こどもの社会的自立までの切れ目のない支援を行っております。

プロジェクトの理念と考え方を左側に、右側には重点的に取り組む重大施策について説明しております。また、次のページには、それぞれの施策が対応します子育てステージを一覧表にしております。

簡単ですが、私の説明は以上です。

○大森議長

今事務局から、平野区こどもたちの「生きる力」育成プロジェクト＋10（プラステン）の説明をしていただきました。様々な取組がなされています。先ほどの話も含めて、このプラステンについてもご質問やご意見、感想等があればと思います。時間の関係もありますので、せっかくおいでいただいているので発言していただけたらなと思うのですが、皆さま、いかがでしょうか。何か感想等がありますでしょうか。

なければ結構です。トータルで、今日全部話されたことで結構です。どうでしょうか。

○砂川委員

今日の話を全部含めてですけど、現場の若い先生たちの考えというのをもっといろ

いろ酌んでいってあげたら面白いことが起こるのではないかなと思うことがあります。

去年、実はちょっと面白い話がありまして、去年の7月頃に喜連東小学校の校長先生から電話がかかってきたのですよ。新卒2年目の先生を対象に、社会体験研修というのがありますね。喜連東小学校の若い男性の先生で1人、今年の対象になられる方がいらっしやいました。社会体験研修というのは、視野を広げるために、違う仕事を体験しなさいという2日間の研修なのです。その対象になられていた若い男性の先生が、「僕は、どうしても砂川自動車でお世話になりたい」とおっしゃったのです。研修に行く先は個々の先生が自分で探してくるのですが、施設に行ったり図書館に行ったりされるのですが、その若い先生がどうしてもうちに行きたいと。私もその先生を知っていたのですよ。何回か会議でも一緒になったし、朝一緒に立ち番をしたりしながらいろいろな話をした関係はあったのですが、ちょっとびっくりしたのですが、校長先生いわく本人がどうしてもそう言っているのと、去年の夏休みに2日間結局うちでお預かりしたのです。車屋さんとして一緒に仕事をしていただいたのですが、もう何をさせても結構ですからと言われたので、炎天下の中2日間引きずり回していろいろとやったのですが、やりながらいろいろな話をしました。どう考えているのか、今学校の中で実際どうか、あの問題はどうかという話をすると、すごく斬新な考えを持っておられるのですよね。自分はこうやりたいと、こうやろうと思っているけど、何が障害になってうまくいかないとか。そういう話ってあまり上に上がっていったくないような気がするのですよね、止められてしまう、と。

多分、保護者とかにも全然伝わっていないと思うのですが、若い先生って本当にやる気があるんです。自分の息子と同じぐらいの年の人ですよ。話を聞いていたらこれは失敗するなとかいうのは分かるのですが、ただそれをやろうとしているのですよ。そういう中に何か可能性があると思うのですよ。英語の教育にしてもそうなのですが、いろいろと立場上、かなり本を読みます、僕は。この2年ぐらいは児童虐待とか発達障がいとか、少年犯罪とかの話を随分読んだのです。そういう中で勉強を

しながら、打楽器をするのが発達障がいには随分効果があるという話を聞いて、こんなどうよと僕が言ったら、「それはまさしく今僕がやろうとしているのです」とその方がおっしゃって、その方は大学時代にずっとドラムをやっていたらしいのですよ。その話は知っていると。カホンってご存じですか。打楽器で箱になっている、その上に座って股の下でたたく太鼓です。それを小学校に持ってきて、特別支援学級の子にそれをたたかせたら、他の子をたたかなくなったと。他害行為がすごくひどい子だったのですけれど、太鼓をたたかせたら同級生をたたかなくなった。こういうことをやっていきたいとおっしゃったのですが、それが多分、学校の中には広がっていないと思うのですよ。打楽器という発想が出てきたのが、コロナ前まで毎年11月にやった子育て支援室主催の子育てフェスタで、コロナ前に最後にやったときに、アフリカの方が2人来はって、ジャンベというアフリカの太鼓を持ってきて、こどもたち皆にたたかせたことがあるのですよ。ものすごく楽しかったので、僕も一緒にたたいたのですが、ああいうのをやったらどうよと言ったら、本当に今自分はそれを考えていますと、だからそういうところに何か可能性があると思うのですよね。皆で一緒にやったら楽しいし、ギターとかピアノとかってうまく弾けないと楽しくないですけど、打楽器って下手でも結構楽しい、皆で一緒にできるし、そういう若い先生のアイデアの中に可能性があるんじゃないかなと去年思ったことがありました。

○大森議長

ありがとうございます。いつもいいお話をしていただいて。

先ほどから言われている詰め込みとかじゃなくて、知識じゃなくていっぱい英単語を覚えさすというよりも、そういう若い先生のチャレンジ精神みたいなものが明日を拓くのではないかと。だから教員であまり知識のいっぱいある人よりも、何か違う力がある人のほうがきっといい先生になるんだろうなと思いますね。その先生も今の砂川自動車屋さんで、そういう社会体験をしていくということも非常に大事なことでしょ。教員というのは、もうそこだけで大体一生を終えていくような人が多いです

よね、そういう違う体験をするというのは、今言われたように違う方向性が出て、やはりすごく大事な事かなと思いました。

あと、どうでしょうか、皆さんで言い残したことはないでしょうか、よろしいですか。

○廣岡校長

今、砂川さんのお話を聞いていて、すごくはっとさせられた、じゃないですけども、今の学校現場ってすごく保守的なのですよね。失敗を許されないというか、きっとその先生もいろいろと思っているけども、それを言ったら他の先生からそんなのをいつやるんとか、親から何か言われたらどうするんやとか、すぐそういう言葉言うのですね。私も若いときはそうやったのですが、何かちょっと違うことをやりたいなと思っても、ベテランの先生方から結構、「あんたのところだけ他の保護者から、他のところから文句が出たらどうすんの。」と言われてたりする。でもとりあえずやったらいいと思うのです。やらないことには何も始まらないと思いますし、それはいろいろなリスクはあるとは思いますが、でもそこでまた何かを失敗したらそこで学ぶことがあるわけだし、やらないことには前に進まないと思うので。ありがとうございます。私もいつの間にか管理職になってついつい保守的になっていたかもしれないので、はっとさせられたという思いもありますし、若い子らをしっかりと応援していこうかなと思いました。ありがとうございました。

○大森議長

いい話だと思いますね。英語でもさっきから出ているように、やはり新しい何か試みをしていくということも大事でしょうね。先ほど全然書かない、ずっと聞いておくだけみたいな、なかなかそれはできないのですが、そんなふうにチャレンジしていくということが大事な事かなと思います。

では、皆さん方いいでしょうか。時間の方も来ておりますので、今日は平野区の今年取組と、それから最後プラステンの話をしていただきました。また、幼稚園・小

学校・中学校からもお話をしていただいて、読書が大事だと、それに関わって英語ということが出されてきました。

今年の２月にアメリカのエヌビディアという会社がすごく爆発的に成長して生産力を上げたという、それが世界の経済株価も非常に動かせたと言われていることがニュースになっていました。いわゆる人工知能の会社ですね、それが世界を変えると。それだけ人工知能がと言われていますが、大事なことは一番最初、冒頭にも藤本さんが言った「人と人がつながる」、あるいは考える力、自分の思っているイメージなどを言葉にきちんと表現していく力ですね、プレゼンテーション。だから漫才なんかもいいのではないかとされています。さらにそこからやってもいいんだとチャレンジしていく。そういう管理職の先生や若い先生、地域や保護者がつながることで新しいことができる。人工知能を超えていく人間のスキル・能力をつくっていくことが今求められているんだと思いますね。今日はそのことがたくさん出されたと思います。

詰め込みではない、人間にしかできない、その能力を育てていきたいと思います、一番最初にミツバチの話でもやはり環境、緑を増やしていきたいと思います、そんな視点から、それは人工知能にはおそらくできないことだと思うのですね。また平野区の人が梅田までこどもを連れて行く校長先生もおられたり、そんな様々なチャレンジの取組をしていけたらいいなと思います。また行政でもよろしくお願いいたします。

いいでしょうか。私は以上で事務局に返したいと思います。

○樋口政策推進課長

皆様、本日は様々な貴重なご意見いただきましてありがとうございました。

なお、本日の教育会議が公私とも何かとお忙しい年度末ぎりぎりの日程の開催となりまして、皆様にもご負担をおかけしましたことは申し訳ございませんでした。

来年度におきましては、開催時期等につきましても平野区教育会議の開催要項の規定とそごのないよう、また工夫してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、引き続き平野区の教育施策にご協力いただきますよう、何とぞよろしくお願いいたします。

では、これをもちまして、平野区教育会議を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。